

みすていく☆ばる〜ん 投稿ステージ名作集  
ミスティア探検隊と6つのオーブ

【第6話（ヒント編 1）】

オーブの正しい並べ方が分からなかったミスティアは、王様のところに相談に来ていました。

ミスティア

「というわけでね、オーブを手に入れた順番に並べてみたけど、何も起こらなかったの。それにあのとき王様どこかで見えてたでしょ。声が聞こえたんだから」

王様

「なんのことかな。いずれにせよ、オーブを全て手にしたのは素晴らしい働きであった。並べ方の手がかりだが、オーブの名前の——えー、コホン、オーブの謎については王家の間でも明らかにはなっていないのだ。城の皆の者に聞いて回るが良いだろう」

ミスティア

「え？ 今なんか言おうとしなかった？」

王様

「いや、何も言っておらんぞ。城の皆の者に聞いて回るが良い」

不審に思ってジトッと王様を見つめるミスティアでしたが、王様は目を逸らして、城の者に聞いて回れ、と繰り返すばかりです。

ミスティア

（むー。あやしい……。でも、しょうがないから他の人に聞いてみよ……）

\* \* \*

ミスティア

「……という状況なの。大臣さん、何か知ってる？」

大臣

「宝物の類なら商人あたりが詳しいでしょう。出入りの商人にでも聞いてみることですな」

\* \* \*

みすていく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集  
ミスティア探検隊と6つのオーブ

ミスティア

「……という状況なの。どうしたらいいかなあ？」

首席顧問

「光を発したことや、台座があることから、オーブというのは魔具に違いありません。しかし、オーブ集めも結構ですが、魔法の基礎修練が疎かになってはいませんか。魔法文字の習熟や、真の名を覚えることなど、ミスティアさんは魔法使いとしてまだまだ学ばなければいけないことがたくさんある時期なのですよ」

ミスティア

(しまった！ これはお説教モード！？)

「あっ、あの、教えてくれてどうもありがとう！ 私そろそろ行かなくっちゃ！」